

# ブック NOTICE OF BOOK 紹介

平田 哲・著（中央経済社）定価2400円  
NPO・NGOとは何か

著書の平田先生にお目にかかってから、もう四半世紀以上になる。初めてお目にかかったのが、我々M・F・J・Cの労働リーダーシップコースの会場となっている京都の関西セミナーハウスでのことだ。その所長を長年やってこられた。

労働リーダーシップコースでも、25年以上、副校長として「国際協力論」の講義を担当されると共に、ゼミ

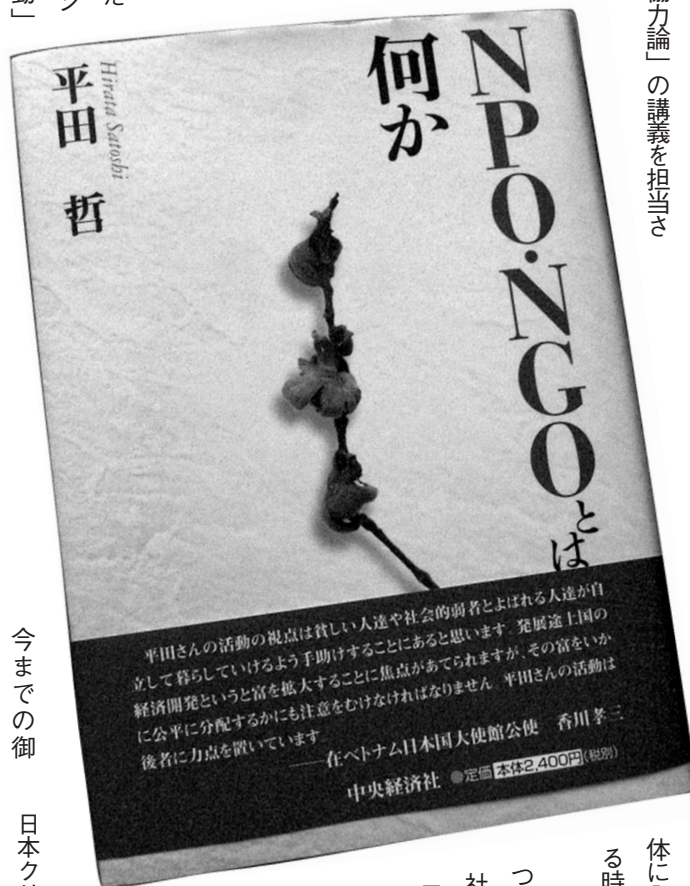
ナールで「労働組合と社会貢献」のテーマをご指導をお願いしている。

平田先生の魅力は、なんととってもその情熱と行動力だ。後半生は国際ボランティア活動に全精力を傾けられている。関西を中心とした労働組合による「アジアに井戸を贈る運動」をはじめとしたほとんど全ての国際ボランティア活動の仕掛け人でもある。

その柔軟かつ壮大なアイデアの源泉にあるものは、アジア途上国で貧しくもひたむきに生きる子供や女性たち一人ひとりの草の根の庶民の存在だ。

私も、平田先生から「渡辺さん、今度の冬休みにバングラディッシュにトイレづくりに行きますか」と誘われ、10年ほど前にAVCの活動に参加させていただいた。その時の農村でのトイレづくりの貴重な経験は一生の宝となっている。

このほど、平田先生が、



今までの御自身のNGO及びNPOにおける経験の集大成として、本書を執筆された。

その中で、様々な提言をされているが、我々、労働組合のNGOとしての新たな役割と使命についても、「NPO・NGOの役割と労働組合」の章を起して提言されている。

「今日、労働組合も企業との関係だけでは

なく、地域社会の市民の中にどれだけ深く入っているか、と同時に、地球市民として、国境を超え、貧困、人権、環境などの地球規模の課題にどれだけ真摯にかかわっていくことができるかが問われています」労働組合も、NPOやNGOの活動をする人々とは無縁の社会にいと見ないで、これらの団体に入っていく、その中核的な働きをする時代がきていると思います」

「労働組合の原点は何かと言えば、一つはやはり人間尊重であり、もう一つは社会正義の実現ということなんです。この二つが労働組合の本来の理念ではないでしょうか。」等々……

労働組合役員の方々にも是非一読してほしい一書である。(渡辺)

## 《著者紹介》

平田 哲（ひらた・さとし）

同志社大学大学院神学研究科修士課程修了。国際教育センター事務局長、関西セミナーハウス所長、

日本クリスチャンアカデミー総主事などを務め、現在、アジアボランティアセンター（AVC）代表をはじめ、関西NGO協議会代表理事、関西国際交流団体協議会副理事長などを務める。主な著書：『日本の雇用システム』（共著、中央経済社）、『職業と人間形成』（YMC同盟出版部）、『生きがいと仕事』（日本基督教団出版部）、『現代ボランティア考』（キリスト新聞社）